

経済経営学類

Faculty of Economics and Business Administration

〈100年の伝統と実績〉を引き継ぐ学類として、幅広い教養と経済・経営の専門知識をもって、未来を拓く実践力をもつ人材の育成を目指しています。

学類のホームページはこちら
<http://www.econ.fukushima-u.ac.jp/>



Admission Policy | こんな人に学んでほしい

経済経営学類では、グローバルな視野に立って現代の経済社会を理解し、経済と経営に関わる専門的な知識および能力を身につける意欲を持ち、卒業するために次の3つの力を身につけたいと考える学生を受け入れます。

- (1) 社会の課題に主体的、実践的に取り組み、客観的に分析し、論理的に思考する力
- (2) グローバルに思考し、必要な実践に進む力
- (3) 自立し、協働する力

2019 学類改革のポイント

今日的な課題も見据えた骨太のリテラシー科目

経済経営学類生にとって共通の学術基礎となるリテラシー科目を再編しました。必修科目(リテラシーA)にはデータ・サイエンス時代を見据えて「入門統計学」を加えました。選択必修科目(リテラシーB)には「多文化理解」と「地域と経済」を加え、大学生活の早い段階から、世界と地域を〈両利き〉で捉えるグローバルな視点に触れます。

垣根を超える、コース/モデル制

2年後期から所属する専門分野として、これまでの3専攻を2つの「コース」へ再編しました。これにより経済学と経営学をより横断的・多角的に学べるようになります。そのうえで、効果的な履修の道標となる4つの「モデル」を設定しています。

フィールドで学ぶ。アクティブに学ぶ。

今日的な課題解決能力を高めるために、フィールド・スタディや能動的な学びの場を多数用意しました。

詳しくは46・47ページへ

経済経営だからこそ学べる、これからの「働き方と暮らし方」

昨今「働き方改革」やワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の重要性が叫ばれています。将来のために夢と「武器」をもつことは大切ですが、長い人生で自分と自分の周りの人びとを守りながら働き暮らしていくためには、夢と「武器」だけでは足りません。

経済経営学類には、多角的で現実的な内容をもった「キャリア形成論」をはじめ、労働制度や社会保障についての科目を通じて、身を守ることも学んでもらう用意があります。他方で人材マネジメントに関する科目から経営の考え方を学術的に知ることでもできます。

わたしたちは学問の世界から学生の皆さんに伴走する存在でありたいと思っています。社会を生きるための「護身術」をいっしょに学びましょう。

取得できる資格

- 高等学校教諭一種免許状(商業)

卒業後の進路

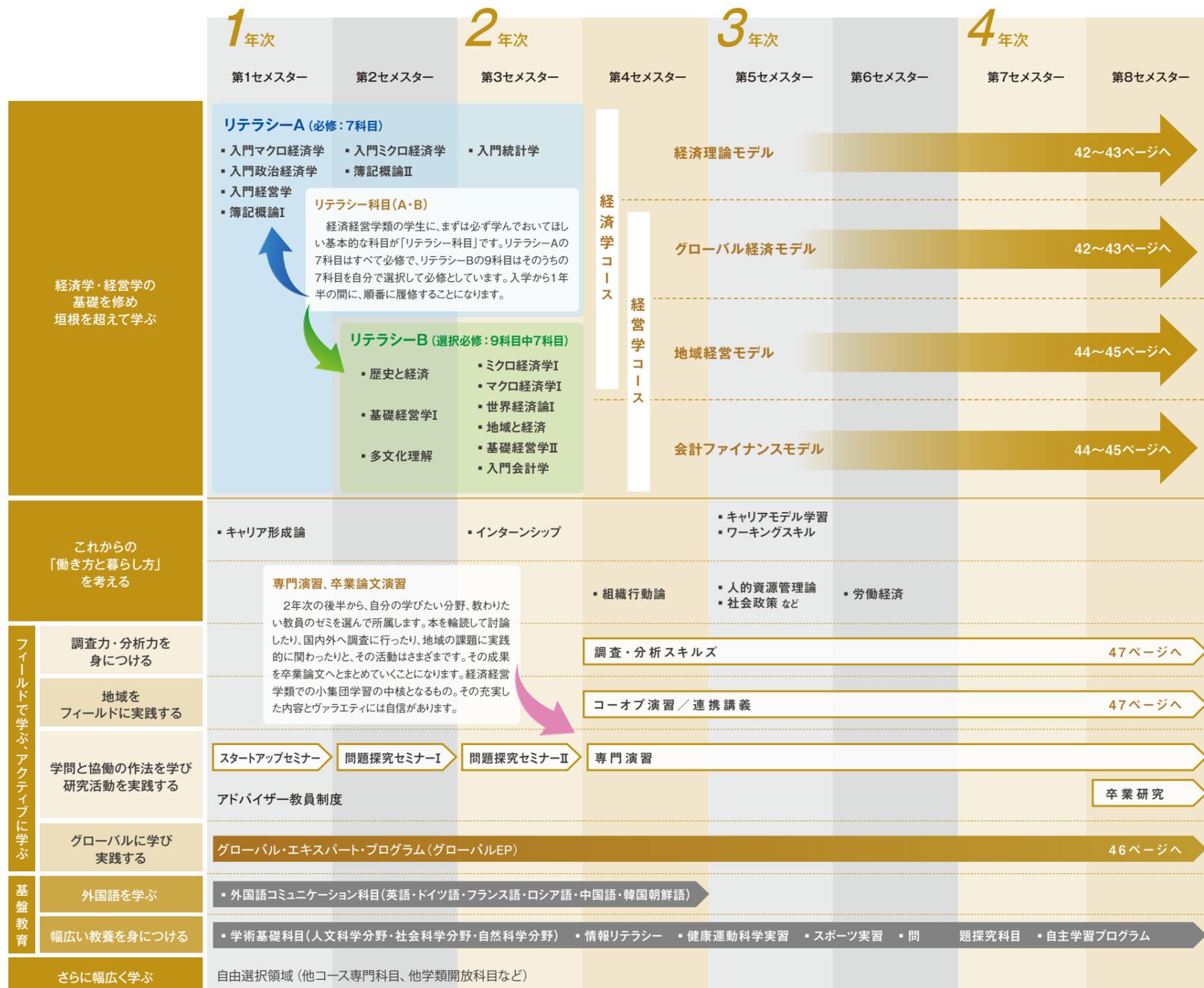
- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 国家公務員
一般職(経済産業省、国土交通省、農林水産省、金融庁など)
国税専門官、財務専門官、労働基準監督官など ● 地方公務員
自治体(福島県、宮城県、仙台市、福島市、郡山市、山形市など)
県警、消防 ● その他公共機関・各種団体(日本年金機構、農業協同組合など) ● 金融機関
都市銀行(三菱UFJ銀行、三井住友銀行、みずほ銀行、ゆうちょ銀行など)
地方銀行(七十七銀行、東邦銀行、山形銀行、足利銀行、常陽銀行など)
保険(東京海上日動、第一生命、住友生命、日本生命、かんぽ生命など)
証券(野村証券、大和証券など)
大手政府系金融機関(日本政策金融公庫、農林中央金庫など) | <ul style="list-style-type: none"> ● エネルギー(東北電力、北海道電力、東京ガスなど) ● 鉄道・航空・観光(JR東日本、成田空港、JTBなど) ● 製造業(クボタ、小松製作所、福島キャノン、キーエンスなど) ● 建設・不動産
(三井不動産レジデンシャル、住友不動産販売、積水ハウスなど) ● メディア(福島放送、テレビユー福島、福島民報、福島民友など) ● 情報通信(NTT東日本、NTTドコモ、富士通など) ● コンサルタント、マーケティングリサーチ
(アクセンチュア、マクロミルなど) ● 専門職(商業高等学校教諭、税理士、社会保険労務士など) ● 大学院進学
東北大学、一橋大学、筑波大学、神戸大学、福島大学など |
|--|---|

カリキュラムの特長

小集団学習をベースにした積み上げ式の教育体系

経済経営学類に入学したらまず全員が「リテラシー科目」を第1 Semesterから第3 Semesterまで学び、経済経営の基本を身につけます。そのうえで第4 Semesterから専門演習に所属し、それぞれの活動や研究を展開します。第7 Semesterから卒業論文をまとめていきます。この積み上げ式のカリキュラムによってグローバルな思考と実践力を養成します。

※カリキュラムは構想段階(平成30年4月1日現在)であり、科目名などは変更になる可能性があります。



学類長メッセージ

100年の実績と未来への革新、福大経済

経済経営学類のつよみは、100年の伝統と課題解決力を高める革新的なグローバル教育です。今回の改革では、経済学コース・経営学コースの2コースに加えて、グローバル人材育成を目指すグローバル・エキスパート・プログラム(グローバルEP)を設定します。また多様な興味関心と将来の進路に対応する、4つの履修モデル(経済理論モデル、グローバル経済モデル、地域経営モデル、会計ファイナンスモデル)を設定します。さらに、連携講義(銀行・証券会社・税理士会ほか)やコーオプ演習(コンサルタント企業、鉄道会社、官公庁)など多様な授業を用意しています。4年間の大学生活で、経済経営学類の伝統力と革新力を活かして、成長して欲しいと願っています。

経済経営学類長 佐野 孝治 教授

研究テーマ / 開発経済学、世界経済論



演習の様子



合同ゼミ発表会

教員紹介

※平成30年4月1日現在

経済学分野	
荒 知宏(国際経済学)	
井上 健(計量経済学)	
岩本 吉弘(社会思想史、経済学史)	
大川 裕嗣(日本経済史)	
菊池 智裕(ヨーロッパ経済論、比較経済学)	
熊沢 透(労働経済、社会政策)	
佐藤 英司(産業組織と規制の経済学)	
佐藤 寿博(ミクロ経済学)	
眞田 哲也(政治経済学)	
佐野 孝治(開発経済学、世界経済論)	
朱 永浩(アジア経済論、社会開発論)	
末吉 健治(日本経済論)	
十河 利明(アメリカ経済論、世界経済論)	
沼田 大輔(環境経済学)	
藤原 一哉(財政学、地方財政論)	
吉田 樹(地域経済論、交通政策論)	

野口 寛樹(経営組織論)
平野 智久(財務諸表論)
伊 柳烈(経営戦略論)

グローバル・スタディーズ分野	
伊藤 俊介(韓国朝鮮語、朝鮮近代史)	
井本 亮(日本語学)	
吉高神 明(英語、国際関係論)	
クスネツォーフ・マリナ(ロシア語、比較社会論)	
グンスケフォンケルン・マルティナ(ドイツ語、外国語教育法)	
佐々木俊彦(英語、英文学、カルチュラル・スタディーズ)	
手代木有晃(中国語、中国近代思想史)	
福富 靖之(英語、理論言語学)	
マクマイケル・ウィリアム(英語、グローバル人材育成プログラム)	
松浦 浩子(英語、応用言語学)	
マッカーズランド・フィリップ・リロイ(英語、異文化コミュニケーション論)	
吉川 宏(ロシア語、ロシア文学)	

経営学分野	
伊藤 宏(原簿計算)	
福村健太郎(租税法)	
岩井 秀樹(人的資源管理論、地域デザイン)	
遠藤 明子(マーケティング論)	
奥本 英樹(財務管理論、現代ファイナンス)	
奥山 修司(管理会計)	
貴田岡 信(コスト・マネジメント)	
根建 晶寛(経営情報分析)	

詳しい経歴はこちら



アドバイザー教員
 スタートアップセミナー、問題探究セミナー、専門演習の教員が学習や進路など大学生活全般のアドバイスをを行います。専門演習に所属しない学生は別途アドバイザー教員となる教員を決定します。



大学で得た学びをもとに
信頼される人材へ。

福島大学には自分の学びたいこと、やってみようという環境があります。私は2年次後半から所属したゼミで、専門知識やプレゼンスキルを獲得できました。さらにゼミ活動の一環で中国を訪問し、現地調査や異文化交流を行い、現地に赴いて学ぶことの大切さを実感しました。現在、私は証券会社に勤めています。まだ研修期間中ですが、ゼミで得た、特にアジア地域の経済動向を読み解く力を活かしながら、社内外から信頼される人へと成長していきたいです。

卒業生
大和証券株式会社
澤田 果奈さん
(2017年度卒)

卒業生と在学生に
インタビュー!



日本経済を多視点で
考察できるように。

多くの課題を抱える福島で日本の経済を学びたいと考え、福島大学に入学しました。大学は講義の取り方から課外活動まですべてを自分自身でカスタマイズする自由があります。その分、大変さもありますが、自分次第で興味関心を追求でき、その過程でともに頑張る仲間や親切な先生方に出会うことができます。おかげで私は日本経済を国際面や歴史面など多面から考察できるようになりました。今後はさらに身近な情報から日本経済を考察し、予測できるようになりたいです。

経済経営学類3年
川島 史奈さん
(栃木県立小山高等学校出身) 在学生

● 専門的な知識を深める

経済学コース

これまでの経済分析専攻と国際地域経済専攻を、ひとつの「経済学コース」へと統合しました。経済社会の課題、歴史と現在と未来を考えるために、各教員がこれまで以上に密接に協力し合って研究と教育を進めます。学生のみならず、各教員がこれまで以上に密接に協力し合って研究と教育を進めます。学生のみならず、各教員がこれまで以上に密接に協力し合って研究と教育を進めます。

主な科目

- ミクロ経済学
- マクロ経済学
- 入門金融論
- 政治経済学
- 財政学
- 経済政策
- 公共経済学
- 労働経済
- 環境経済学
- 産業組織と規制の経済学
- 計量経済学
- 日本経済論
- 国際経済学
- 国際関係論
- 開発経済学
- 世界経済論
- アメリカ経済論
- アジア経済論
- 経済学史
- 日本経済史
- 比較経済史



● 主体的に実践する

経済理論
モデル

「物価が下がってきている」「株価が上昇している」「人手不足が深刻になりつつある」といった経済事象について、その背景にある要因を探ったり、適切な対応方法を選択したりするためには、経済理論の理解が不可欠です。これまでに積み重ねられてきた経済理論をその歴史的な経緯も含めて体系的に理解し、現実の経済問題に適用することができる人材の育成を目指します。

活動Pick Up! | ERE (経済学検定試験)

学生有志が、ゼミの枠を超え学習組織を立ち上げ、ERE (経済学検定試験) の勉強会を開いています。EREとは、経済学の基礎知識と初歩的な応用能力のレベルを判定する全国規模の検定試験で、多くの大学が大学院試験で取り入れています。勉強会では、学生同士が議論を重ねて問題の理解を深め、ERE大学対抗戦でも成果を上げています。学生が主体なので、知識のみならず、自主性を身につけるよい機会となっています。また、公的機関や金融機関の方々からお話を伺う企画を立てるなど、活動の範囲を広げています。経済学にむきあうことを通じて、知識を深め、社会経験を積み、絶好のチャンスです。



グローバル
経済
モデル

Think Globally, Act Locally. グローバリゼーションが進む現代では、地域で活躍する場合でも、世界的規模で考え、分析することが必要です。国際経済学などグローバルな視野に立った経済学・経営学をはじめ、欧米やアジア地域を対象とした科目を学んだうえで、グローバル・エキスパート・プログラムで実践的語学力を身につけることで、グローバル人材育成を目指します。

活動Pick Up! | 海外インターンシップと「Work Experience Abroad I・II」

本学類では、年間を通じた教育プログラムとして海外インターンシップを提供しています。まずインターンシップに先立ち、身につけておくべき文化や技術をネイティブスピーカーの教員から英語で学ぶ授業があります (WEA I)。そして8月から9月の約2ヶ月間、米国テキサス州ヒューストン市役所でインターンシップに参加します。職場体験だけでなく、現地の大学 (University of St. Thomas) で福島について発表するなどの機会もあります。帰国後は各自の体験を英語で報告する授業が用意されており、学びをさらに深めることができます (WEA II)。



地域経営モデル



自分で考え、決断し
行動できる人間へ

在学中は経営情報分析をテーマとしたゼミに所属し、財務分析による論理的な企業分析力を身につけました。それらは就職活動や株式投資などに役立ったと感じています。現在は福島県内で就職を考える人や企業のリクルート活動を企画支援するプランナーの仕事をしています。まだ入社2年目で未熟な面もありますが、高校までとは違う大学での自由な学びや学類の枠を超えた豊富な交流経験が、今の仕事でも、課題に対して自分で考え、行動することにつながっていると思います。

株式会社ヒューコム
卒業生 佐藤 翔太さん
(2016年度卒)

卒業生と在學生に
インタビュー！



ゼミの学びを通して
自己表現力をアップ

2年生になって関わりが増えた友人や先輩の影響から、企業経営専攻で企業戦略や財務会計を中心に学んでいます。ゼミに所属してからは、特定の分野の学びを深めると同時に、ディスカッションなどを通して自己表現力を高めることができました。学んだことを「ビジネスプランコンテスト」などで披露する機会もあるので、やりがいを感じています。社会の出来事の背景についても興味を持つようになりました。この主体的に学ぶ姿勢や表現力は、私の自信にもつながっています。

経済経営学類3年
在學生 高谷 優希さん
(福島県立安積黎明高等学校出身)

● 専門的な知識を深める

経営学コース

経営学コースでは、非営利組織(自治体、NPOなど)を含め、より幅広い視野で経営現象を捉えます。とりわけ、地域経済と経営、会計とファイナンス(金融)について、基礎を修めながら垣根を超えて学びます。

主な科目

- 経営戦略論
- 経営組織論
- 組織行動論
- 人的資源管理論
- マーケティング論
- 消費者行動論
- 地域企業経営論
- 地域経済論
- 地域政策論
- 応用経営学
- 調査法
- 租税法
- 経営情報分析
- 財務管理論
- 現代ファイナンス
- 中級簿記
- 上級簿記
- 財務諸表論
- 原価計算
- 管理会計
- コスト・マネジメント



● 主体的に実践する

地域経営
モデル

少子高齢化や人口減少は現在の日本社会全体が抱える課題ですが、とりわけそれが著しいのが地方都市です。そこで地域経営モデルでは、いわば「課題先進地域」といえる地方都市をフィールドに、経営分野と地域経済分野について重点的に学びます。これによって、マネジメントと地域振興の視点を併せ持った人材の育成を目指します。

会計
ファイナンス
モデル

企業活動の結果を分析し、将来に向けて適切な経営意思決定を行うためには、会計情報を活用する知識の習得が不可欠です。会計ファイナンスモデルでは、外部報告のための財務会計、経営管理のための管理会計、財務管理のためのファイナンス手法を体系的に学習し、会計数値を経営行動に活用できる人材の育成を目指します。

活動Pick Up! | 会津若松の「おちょこパス」

会津若松市内を運行するまちなか周遊バスの「おちょこパス」。これはバスのフリー乗車券と会津塗のおちょこ、会津木綿パスケースをセットで購入すると、20余りの協賛店をおちょこを片手に巡ることができるというものです。経済経営学類の吉田ゼミが会津乗合自動車株式会社と商品企画しました。発端は市内を現地調査した学生が、観光施設を点と線でつなぐ観光ではなく、人の流れを生み出す面の観光が必要と考えたことで、学生が街とむきあうことで生まれた企画です。今、おちょこはまち歩きのごきげとなり、人と地域をつなげる小さなコミュニケーションツールとなっています。



活動Pick Up! | 東邦銀行との「地域戦略研究会」

福島大学と東邦銀行との共同研究会である「地域戦略研究会」では学生と東邦銀行の行員が、地域や企業のさまざまな課題について討論会を実施しています。年末には公開報告会の「地域戦略フォーラム」を開催し、地域の企業や自治体へ研究報告や提言をしています。社会人と一緒に考え、議論し、プレゼンすることは、学生たちにとって得難い大きな経験となります。





コース横断プログラム

グローバル・エキスパート・プログラム (グローバルEP)

中国、韓国、ロシア、ドイツ、米国、カナダ出身の教員を擁する経済経営学類。異なる国籍、文化的背景を持つ人々の中で他者に共感しつつ、自らの周りの諸課題を地球規模で考える。これが経済経営学類の目指す国際性です。

グローバルEPには、学生が海外に飛び立てる、また福島で外国人留学生と交流できる特色ある授業があります。少人数の英語ゼミに所属し、英語で発表する、議論するなど、実践的な英語力を磨いていきます。また日本語、英語とともに、欧州評議会が提案している複言語主義に基づき、英語以外の外国語を学修し、三言語の運用能力の向上を目指します。身につけた語学力を武器に、留学、海外調査、海外インターンシップなどさまざまな異文化体験を積むことができます。

Step out of your comfort zone! 成長を望むなら「快適な空間から飛び出さない」という意味です。このプログラムは、あなたがその一歩を踏み出す一助となるはず。ぜひ福島で世界を感じ、世界とコミュニケーションしましょう。

毎日英語

「毎日英語」として英語授業を毎日受講できます。ネイティブスピーカーの英語による授業も選べます。

Fukushima Workshop

世界各国の協定大学から短期で来日する留学生と、東日本大震災の被災地を訪問したり、市内の農家で桃狩りなどをしつつ交流を深める Fukushima Workshop (Fukushima Ambassadors Program) を開講しています。

海外調査

中国、タイ、ベトナム、ミャンマーなどのアジア地域やドイツなどのヨーロッパ地域に渡航し、現地の企業活動や社会問題に関する調査を行い、同時に現地のさまざまな文化に触れることのできる授業です。

Work Experience Abroad (WEA)

米国テキサス州の最大都市ヒューストンに2か月間ホームステイし、現地の企業や市役所で実務研修を受けます。研修で使用する言語はもちろん英語です。研修期間が終了する頃には、英語力が飛躍的に向上すると評判です。

実践ドイツ語演習、実践ロシア語演習

ドイツやロシアに渡航し、語学研修を受けます。同時に現地の小学校を訪問、幼児教育の現場を視察、少数民族の村を訪れるなど、さまざまな社会的・文化的なエクスカージョン(小旅行)に参加します。

調査・分析スキルズ

さまざまな意思決定の場において、経験にもとづく判断のみでは対応できない状況が生じています。そこで、必要となるのが、データにもとづく判断です。まずは、課題を正しく把握したうえで、その課題の解決に向けた計画を立てる必要があります。計画の中では、適切な調査のやり方、収集するデータの種類の種類などについて丁寧に確認していくことが要求されます。調査の実施後、集まったデータを適切に処理し、そこから具体的な解決方法を見つけていきます。

このようなデータにもとづく意思決定を行うための方法を習得するために、「調査設計を身につけるための科目」「データの分析方法を身につけるための科目」の2種類の領域についてさまざまな科目を開講しています。また、それらの科目の中では、データの処理に不可欠となるコンピュータによる処理方法についても学んでいきます。



コーオペ演習 / 連携講義

企業や業界団体など、さまざまな外部組織と提携した実践的な科目を多数揃えています。演習形式の「コーオペ演習」と講義形式の「連携講義」があります。

コーオペとは「cooperative(協同の)」のことで、外部組織と大学が協同運営する新しい演習形態です。短期のインターンシップでは得られない、実践的な課題解決を体験することができます。連携先には、東邦銀行、アクセンチュア(コンサルティング会社)、JR東日本、自治体、NPOなどがあります。

一方、連携講義は、連携先の外部組織が講義を担当するもので、現実のケースを通じて専門的な内容を学ぶことができます。租税法概論(東北税理士会)、地域金融論(東邦銀行)、証券市場論(野村證券)、財務諸表監査(公認会計士協会東北会福島県会)などがあります。

